

ときめき人

Tokimeki bito

石越らしさを届けます



登米中央商工会青年部石越町支部「石越らしさ編集局」写真左から、後藤智大さん、千田久勝編集長

取材を通じた新たなつながりが次の取材に結びつきます。

「目標は石越を知ることができる情報源。実際に暮らしていても知らないことはたくさんあります。もっと地元のことを知り、興味をもってもらえるよう知っているようで知らない石越を紹介したい」と話すのは、広報紙石越らしさ編集長の千田さん。

商工会青年部石越町支部の2人は、コロナ禍で行事やイベントの開催が制限されている今だからこそ、地域のためにできることはないか模索していた。「今年は石越町商工会が発足60周年を迎え、記念事業としても何かやりたかった」と話す2人。地域内交流の活性化を目指し、新しい時代に向かう石越町の今を伝える広報紙「石越らしさ」を創刊することを決めた。掲載する情報の基準は石越らしさかどうか。石越町を離れて生活したことが

ある2人だからこそ客観的に石越を見つめ、地元らしい話題を掘り起こすことが出来る。掲載する情報は一生懸命何かに挑戦している人、地元商店や事業所、笑顔の子どもたちなど地元にいる人の顔が見える記事が中心の構成とした。制作部数は2500部で隔月発行。住んでいる人だけでなく職場が石越という人にも地域のことを知ってもらえるよう町内の店舗や事業所など34カ所が無償配布している。

二人三脚で始めた紙面作りは、準備号を含め3回目の発行を数えた。「遠方にいる出身者や移住を考えている人との情報交換のツールになってくれればうれしい」と話す。石越でしか手に入らない「石越らしさ」を届けるため、2人の取材は続く。

編集後記

▼登米市で事前合宿を終えたボート競技ボーラントチームが東京五輪で銀メダルを手にしました。選手への取材の中で、一番多く出たフレーズは、感謝の言葉。どんなことにも「当たり前」ではなく、感謝の気持ちを持つことが大切なのだ改めて感じました。(三浦)

▼ときめき人を取材。コロナ禍で交流が減っていく地元を何とかしたいという強い思いを抱く2人。広報紙を通じて地元で元気を取り戻そうとする2人の地元愛に心を打たれました。編集長からの「広報とめには負けない」の言葉に、緩んだねじを巻き直してもらった気がしました。(佐々木)

▼気象予報や防災、お知らせ情報は、より早く関係する多くの方々に伝わることで「備え」や「支え」に結びつきます。対人、物事の予測、様々な情報も同じで、相手の立場や思い、情報・知識を得て、共感や備えにつながるので「何を信じて行動するのか」を意識することが大事だと思います。(高橋)



登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は市公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomecity/>

